

平成 29 年度全国学力・学習状況調査及び市学力調査の結果について【小学校】

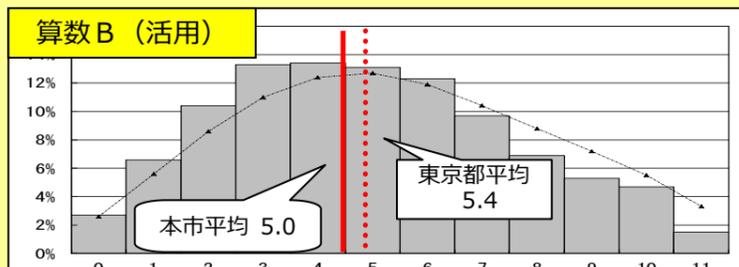
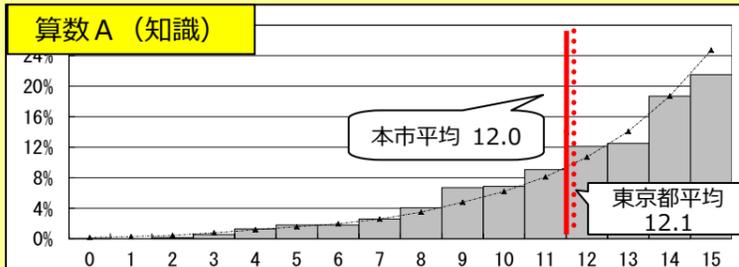
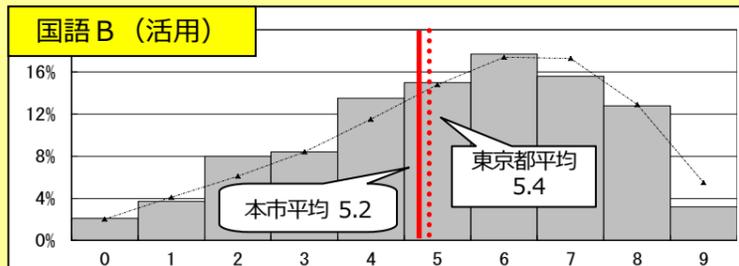
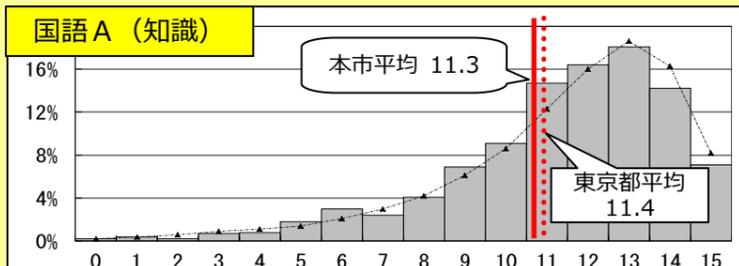
学力調査結果の公表の考え方

義務教育の目的は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことにある。本市における、この義務教育の目的の学力面での達成状況を明らかにするため、学力調査の結果に基づき、(1)基礎的な学力の定着状況と、(2)児童・生徒の一人一人の学力の伸長の度合いを市全体及び学校ごとにまとめ公表する。また、この調査結果を、今後の教育活動の一層の改善・充実を図っていくための基礎資料とする。

学力の定着状況について 平成 29 年 4 月 1 8 日実施 平成 29 年度全国学力・学習状況調査の結果より

正答数分布

※縦軸：児童の割合(%) 横軸：正答数(問) ※棒グラフ：東久留米市 折れ線グラフ：東京都



平均正答率(全国)未満の児童の割合(%)

教科	本市	東京都	全国(公)
国語 A (知識)	44.2	39.8	45.1
国語 B (活用)	50.7	46.9	51.3
算数 A (知識)	35.2	31.8	36.5
算数 B (活用)	59.5	52.7	57.7

平均正答数(問)

教科	問題数	本市	東京都	全国(公)
国語 A (知識)	15	11.3	11.4	11.2
国語 B (活用)	9	5.2	5.4	5.2
算数 A (知識)	15	12.0	12.1	11.8
算数 B (活用)	11	5.0	5.4	5.1

※全国学力・学習状況調査対象学年：小学校 6 年生・中学校 3 年生

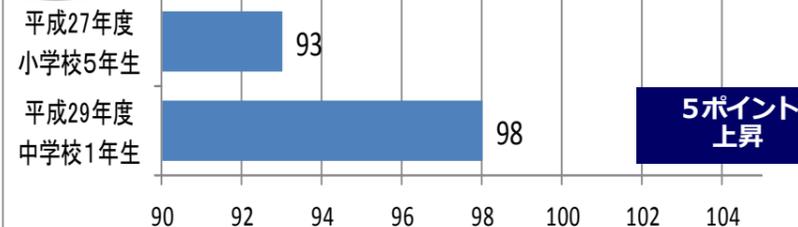
学力の伸びについて 平成 29 年 4 月 1 1 日実施 平成 29 年度市学力調査より

平成 27 年度小学 5 年生と平成 29 年度中学 1 年生(同一児童)の平均点を、それぞれ全国平均を 100 とした指数に換算し、伸びを比較

国語



算数



東久留米市確かな学力の伸長を図るための調査対象学年：
小学校 3 年生・小学校 5 年生・中学校 1 年生・中学校 3 年生

調査結果の概要

【概要】

- 国語 A、算数 A は、正答数の多い層が厚く、国語 B、算数 B は幅広く分布しており、正答数が少ない層が厚い。
- 平均正答率(全国)未満の児童の割合は、全ての項目で東京都平均よりも多い。しかし、国語 A・B、算数 A では全国平均よりも下回っている。
- 平均正答数は、全ての項目で東京都を下回っている。国語 A、算数 A では全国平均を上回り、国語 A では全国と並び、算数 B は全国平均を 0.1 ポイント下回っている。

【各教科の課題】 ※全国平均より下回っている課題のうち顕著なもの

《国語》「目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く」「手紙の構成を理解し、後付けを書く」「俳句の情景を捉える」「学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む」「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめる」に課題が見られる。

《算数》「商を分数で表すことができる」「未知の数量を表す□を用いて、問題場面を除法の式に表すことができる」「料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる」「示された式の中の数の意味を、表と関連付けながら正しく解釈し、それを記述できる」「割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができる」「示された割合を解釈して、基準量と比較量の関係を表している図を判断できる」に課題が見られる。

【概要】

- 国語において、平成 27 年度小学 5 年生では、全国平均値 100 を、4 ポイント下回っていた。平成 29 年度中学 1 年生でも、同様で、横ばいの結果だった。
- 算数において、平成 27 年度小学 5 年生では、全国平均値 100 を、7 ポイント下回っていた。平成 29 年度中学 1 年生でも、2 ポイント下回ったものの、2 か年で 5 ポイント上昇した。

【各教科の課題】

※全国平均より下回っている課題のうち顕著なもの

《国語》
「適切な言葉を選び話すこと」「文学的文章を読むこと」「語句の構成を理解すること」「漢字を覚えて正しく使うこと」等に課題が見られる。

《算数》
「約数、倍数」「資料の調べ方、百分率」等に課題が見られる。

見犬・果眞